

# 成田空港を取り巻く環境変化と 会議の位置付けについて



## 成田空港緊急戦略プロジェクト会議での検討

- 成田空港の活用施策等を検討するため、平成21年度～平成22年度にかけて、成田空港緊急戦略プロジェクト会議を開催。
- 同会議の議論の結果を「中間とりまとめ」として整理し、空港機能強化・県内経済活性化策についての提言がなされた。県として提言実現に向けての取組みを継続中。

### 成田空港緊急戦略プロジェクト会議

平成21年12月、平成22年3月の成田空港容量拡大(20万回→22万回)や同年7月の成田スカイアクセス開業といった成田空港の機能強化を契機に、“成田空港の競争力強化と県内経済の活性化”を目指し“プロジェクト会議”を設置。

### 中間とりまとめの提言内容

- 提言1 官民一体となった成田空港のPR強化
- 提言2 成田空港と地方都市を結ぶ国内フィーダー路線のPR・充実
- 提言3 空港利用者に対する“おもてなし”機能の向上
- 提言4 成田空港の国際競争力の向上
  - ・成田空港発着枠の更なる増加(30万回化)を早期にかつ着実に実現すべき
  - ・成田空港と東京駅間のアクセス改善の検討を推進すべき
  - ・道路アクセスの改善(圏央道等の早期完成・アクアラインの料金引き下げ恒久化等)
- 提言5 空港を活用した県経済の活性化
  - ・空港を活用したインバウンド観光の推進(MICE誘致等)
  - ・物流機能の高度化、企業誘致の推進、広域ネットワークの強化による経済ポテンシャルの向上
  - ・新スキームによる県経済の活性化検討(国際戦略総合特区、空港周辺カジノ検討等)



## 中間とりまとめにおける提言事項に対する主な取組み状況

### ◎ 官民一体となった成田空港のPR強化

・ 広報戦略組織を活用し、各関係者が連携し、官民一体となった取組みを行うべき

・ スカイアクセスの開業を契機にマスメディア等を利用した広報や県外企業に対するPRリーフレットの配布等を実施

### ◎ 成田空港と地方都市を結ぶ国内フィーダー路線のPR・充実

・ 成田空港の国内線の周知・利用促進を図るべき

・ 国内未就航都市への展開や多頻度化

・ 国内線充実のため、各エアラインに働きかけるとともに、旭川便新規就航に合わせて利用促進活動を実施

### ◎ 空港利用者に対する「おもてなし」機能の向上

・ CIQについては入国審査での待ち時間短縮のためにも、施設面の改善や人員増員を図るべき

・ 与党及び関係省庁に要請

### ◎ 成田空港の国際競争力の向上

・ 成田空港の発着枠の更なる増加(30万回化)

・ 需要の高い時間帯の発着枠を2本の滑走路を効率的に活用する等の方策により、増枠すべき

・ 圏央道・外環・北千葉道路の早期完成を実現、新空港自動車道の料金無料化や東京湾アクアラインの恒久的な料金引下げを実現すべき

・ 昨年10月 四者協議会で30万回合意

・ 本年10月、同時離発着の開始

・ 与党及び関係省庁に要請

・ 東京湾アクアライン料金引下げ社会実験

### ◎ 空港を活用した県経済の活性化

・ 海外から県内観光にヒトを呼び込むために、観光の商談会に積極的に参加するなど、千葉の観光地・魅力を売り込むべき

・ 県内各拠点の強みを活かした産業集積、戦略的な企業誘致を推進するとともに、成田空港と各拠点との広域的なネットワークを強化するための方策を検討すべき

・ 成田空港周辺において、国際的なコンベンション機能の充実に向けた検討をすべき

・ カジノについては、成立可能性について検討をはじめべき

・ 11月に知事を訪問団長として県内事業者等とともに、台北国際旅行博開催に合わせてPRを実施  
・ また台北と高雄で商談会を実施

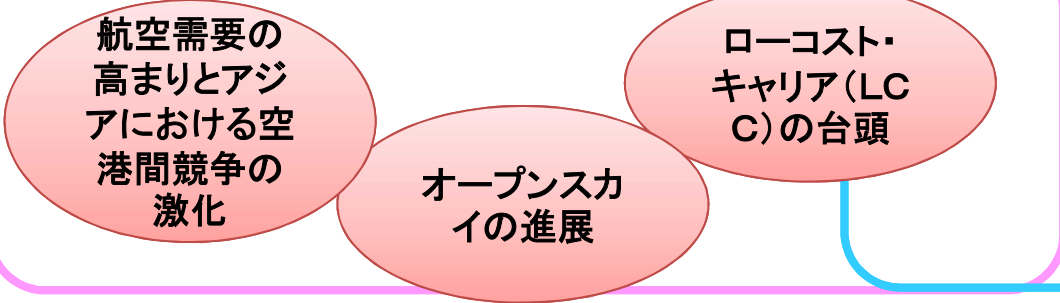
・ 戦略的な企業訪問や知事によるトップセールス、外資系企業交流会等を展開

・ 国際会議開催補助金の新規創設

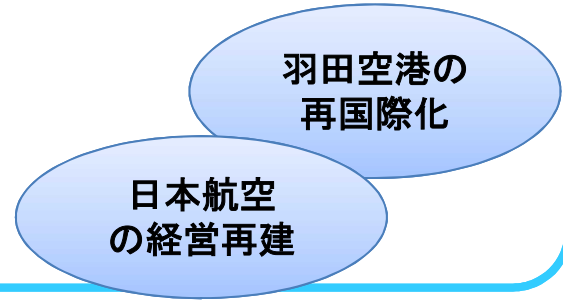
・ 複合施設の導入イメージの具体化や、カジノ導入による懸案事項対策等について、具体的な調査・検討に着手

# 成田空港を取り巻く環境の変化

## 世界的な潮流



## 国内の情勢



成田緊急戦略プロジェクト会議  
第6回会議での状況分析

発着容量30万回の合意

新たな状況変化が加わる！

LCCが首都圏空港へも進出する動きが加速化  
(エアアジア・ジャパン、ジェットスター・ジャパン設立)

スカイマーク社が新規就航するなど成田の国内線路線の拡充・増便

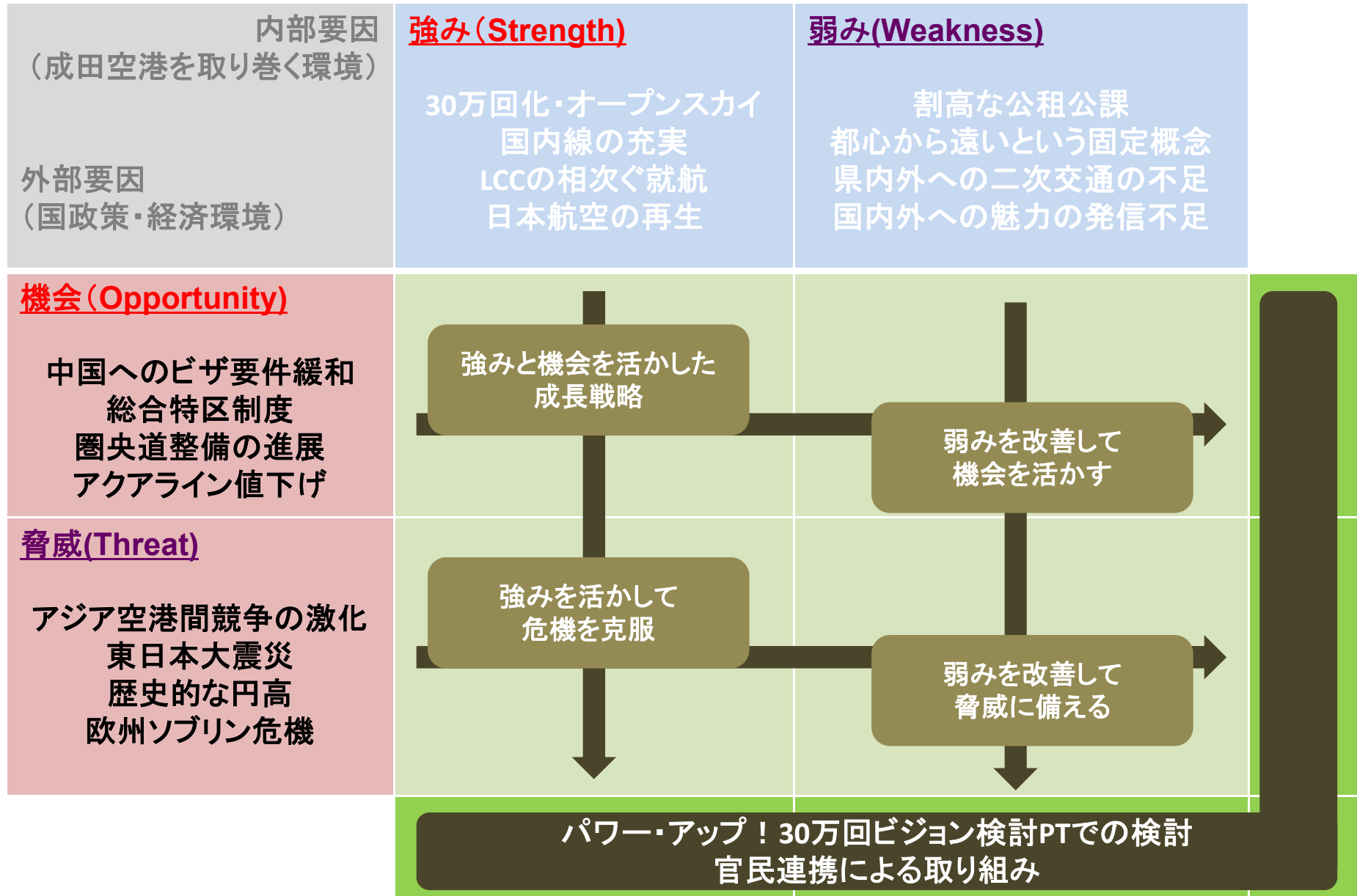
日本航空再上場に向けた動き  
(ボストン便の新規開設等)

欧州危機による世界経済の先行き不透明化

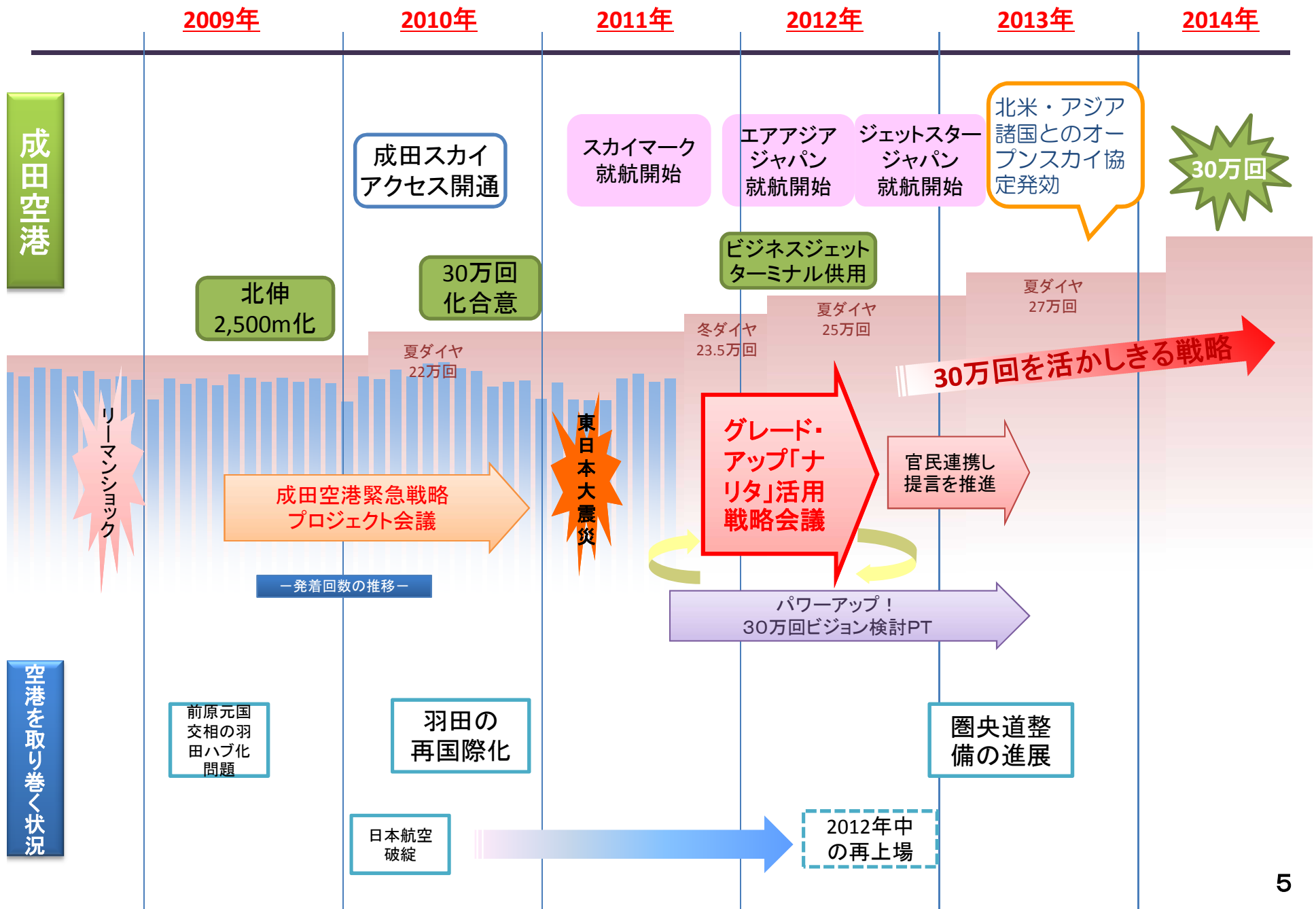
東日本大震災や急激な円高によるインバウンド旅客の減少

その後1年間での新たな動き

# グレード・アップ「ナリタ」活用戦略会議での主な論点



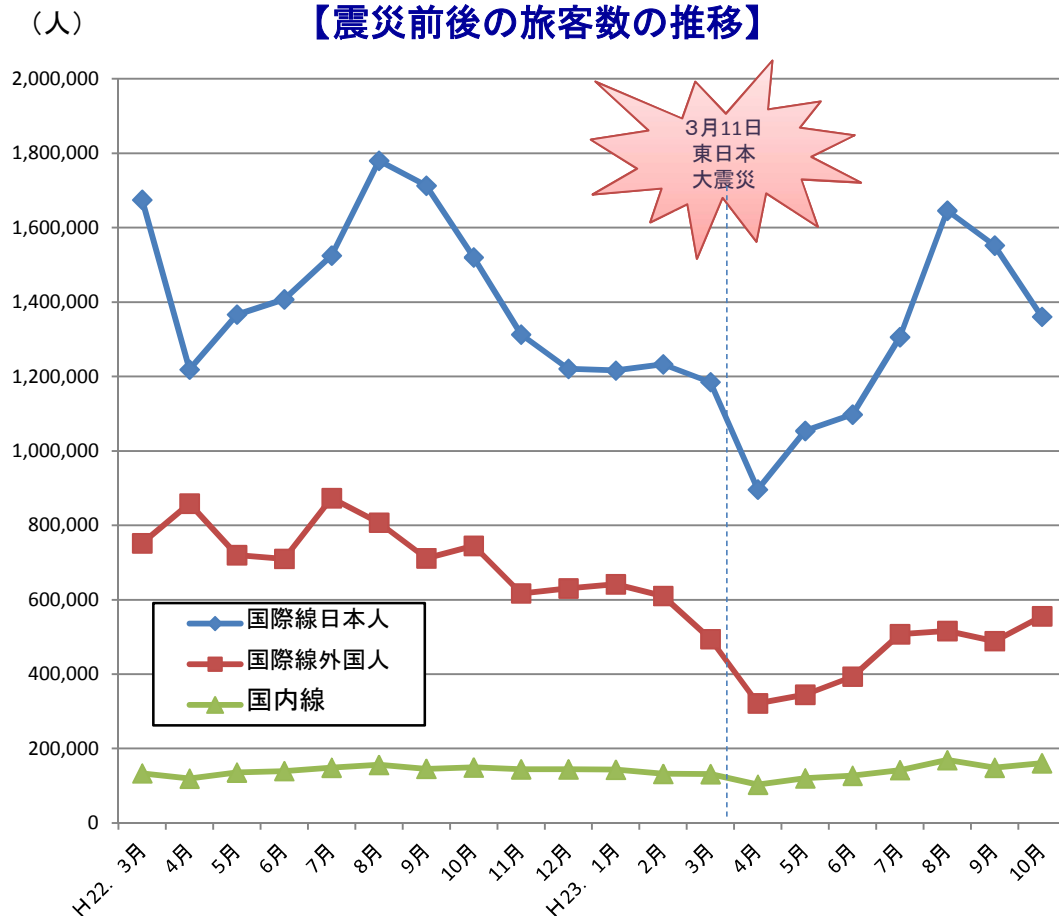
# 成田空港を取り巻く環境変化と会議の位置付け



## 参考1 成田空港を取り巻く状況

- 成田空港の30万回化に向けた動きを踏まえ、国内路線の新規就航・拡充や、成田空港を拠点とするLCC(格安航空会社)が設立され、今後国内・国際線への就航が予定されるなど、新たな動きが活発化している。
- 成田の国際線旅客数等は東日本大震災の影響を受けて大きく落ち込んだが、全体的に回復基調にあり、特に日本人については出入国とも震災前の水準に戻ってきている。

【震災前後の旅客数の推移】



### 【国内線の新規就航】

- ・スカイマーク社が新規就航。
- ・10月30日の旭川、新千歳、12月8日の那覇に引き続き、福岡・神戸・仙台にも就航予定。



←旭川への初便運航に合わせて、知事が旭川空港を訪問し、国内線の利用促進に向けたPRを実施。

### 【新規LCCの就航】

- ・全日空及び日本航空はLCCを外国資本等と共同出資して設立

#### ☆エアアジア・ジャパン(株)

- ①資本金:50億円まで増資 (ANA67%,エアアジア33%)
- ②拠点空港:成田空港
- ③運航路線:成田=札幌、福岡、那覇(2012年8月)・仁川、釜山(2012年10月)

#### ☆ジェットスター・ジャパン(株)

- ①120億円まで増資 (JAL33.3%,カンタス33.3%,三菱商事33.3%)
- ②成田空港or関西空港
- ③成田、関西、福岡、沖縄の国内線・アジア短距離国際線を予定(2012年中)

## 参考2 パワーアップ！「30万回ビジョン検討プロジェクトチーム」について

- グレードアップ「ナリタ」戦略会議での検討課題を整理し、同会議での議論を深化させるため、県庁内の組織として、パワーアップ！「30万回ビジョン検討プロジェクトチーム」を立ち上げたところ。
- パワーアップ！「30万回ビジョン検討プロジェクトチーム」の下には、広域活性化部会、情報発信部会、国内線活用部会を設置し、年間発着枠30万回のさらなる活用に向けた施策を検討。

### 検討体制

